

立命館大学



RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

スポーツ健康科学部

RITSUMEIKAN UNIVERSITY COLLEGE OF SPORT AND HEALTH SCIENCE

2024

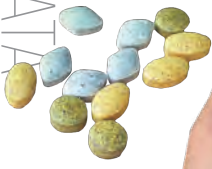
この学びに、
線は引かない。



EXERCISE
EFFECT

ADVANCED
TECHNOLOGY

QOL
SCIENCE
DATA



ORGANIZATIONAL
PSYCHOLOGY



BIOMECHANICS



BUSINESS



HEALTH
PROMOTION



NUTRITION
SUPPORT



EXERCISE
PHYSIOLOGY



HUMAN ETHICS
AND PHILOSOPHY



INCLUSIVE
PHYSICAL
EDUCATION

健康と幸福、世界の平和を探究する 「スポーツ健康科学」

スポーツ健康科学部では「ひと」が健康的で豊かに暮らすことを実現するため、生物学的な「ヒト」の最小単位である細胞や遺伝子から、臓器、人体、さらに「人」の集合体である集団まで、社会の幅広い課題について、多様な学問分野を連携させ、科学的に解決策を導き、人々の健康、幸福な社会、平和な世界を創造することを目指します。

スポーツサイエンス領域

科学と実践の融合を通じた
スポーツパフォーマンスの向上

スポーツパフォーマンス向上に資する生理学 / 生化学 / 力学 / 工学領域の最先端知見やその融合について学びます。スポーツパフォーマンスの向上に資する専門的知識と実践力を身に付け、加えて他領域の学びとの連携の中でスポーツ健康科学の未来を拓きます。

健康運動科学領域

身体活動を通じた人々の幸福、
豊かな生活の実現

人々の幸福、豊かな生活を実現する上で「礎」となる健康科学の理論と実践を担う学問領域です。健康の維持・増進に関する運動・身体活動や栄養の効果およびメカニズムを学んだ上で、個人や地域社会における健康問題、健康ニーズを把握し、人々の生活の質（QOL）の向上や疾病および傷害予防に貢献します。

4つの領域を横断し
学際的に学ぶ



スポーツ教育の^{いま}現・^{ここ}場から、
人と社会を共に育む

文化・歴史・哲学・倫理等の人文学とスポーツ教育学・コーチング学・スポーツ心理学・栄養スポーツ教育学等の社会科学におけるスポーツ教育学分野に関する理論や最新の知見を学びます。スポーツ教育の実践を基盤としながら、人と社会を他者や他分野と共に育みます。

つながる・つなげるマネジメント

社会や組織、スポーツ、人がつながり合う・紡ぎ合うために必要な哲学・考え方や戦略について学びます。新しい社会や組織のあり方、そしてスポーツの新展開を「創造」し、それを「発信・実現」します。

スポーツ教育学領域

スポーツマネジメント領域

MESSAGE FROM DEAN



立命館大学
スポーツ健康科学部 学部長
長積 仁

いま社会で、「well-being」という言葉が取り上げられています。この言葉は、「健康で安心し、幸せな生活が過ごせる状態」のことを意味します。人々の健康と幸福、世界の平和を探究するスポーツ健康科学は、まさに、ひとと社会における「well-being」を実現する学問です。

日常生活の様々な場面で、「なぜ?」「どうしてだろう?」「本当なのか?」といったことを感じる事が多々あると思います。それが「問いを立てる」ことや「思考を巡らす」ことにつながり、「学びの出発点」が生まれます。私たちとともに、「well-being」を実現するための「知」をプロデュースする世界へと漕ぎ出しましょう。

学部ビジョン

“CREA”に込める想い…

スポーツ健康科学部では、人々の健康、幸福な社会、平和な世界を創造し、志高く未来を拓く人を育てたいと考えています。

そのため、学部では、“CREA”というビジョンを掲げて、皆さんのキャンパスライフにおける様々な学修活動を推し進める方向性を示しています。

“CREA”とは、「産む、創造する、引き起こす」などの意味をもったラテン語“creare（クレアーレ）”を語源にもつ現代イタリア語で「創造」を意味する言葉です。それぞれの頭文字には、“Collaboration（異分野を紡ぐ）”“Resiliency（主体的に挑む）”“Edge（智を極む）”“Attraction（ひとと組織が輝く）”という想いが込められており、皆さんには、“CREA”を体現できる人になってもらいたいと思います。



厚底シューズはなぜ人気？ 最新のテクノロジーで解明する ランニングフォームと身体への負荷の関係



陸上競技の長距離トップ選手が多く履いている厚底のシューズ。高いパフォーマンスが期待できるものの、脚部への負荷は大きくなるといえます。一方で、薄底のシューズはアキレス腱への負荷が大きくなります。どちらを選ぶべきなのでしょう？シューズの底厚によって何がどのように違ってくるのでしょうか？

現在、ランニングシューズの底の素材・形状とランニング時の負荷の関係について研究している長野明紀先生に、スポーツ健康科学部の施設で行われている調査の内容について聞きました。



長野 明紀 教授

モーションキャプチャとフォース
プレートで足の動きを分析

詳しい記事はWEBでご覧ください



「乳酸は疲労物質」はもう古い 筋肉や脳のエネルギー源 競技力アップにもつながる「乳酸」の話



普段スポーツをしない人でも「乳酸」という物質の名前は聞いたことがあるでしょう。疲労物質、あるいは筋肉痛の原因物質だと思っている人がいるかもしれません。しかし、それは大いなる誤解であり、乳酸はむしろ身体や脳に良い影響を与えてくれていることが最近の研究によって明らかになってきました。

乳酸が身体に与える影響とはどのようなものなのでしょう？運動と栄養が身体へ及ぼす作用の解明を通して健康増進や競技力向上をサポートする橋本健志先生に、最新の知見を聞きました。



橋本 健志 教授

運動時に筋肉から出てくる乳酸は
実は「万能薬」なのです

詳しい記事はWEBでご覧ください



あなたの 探究心 “？” が世界を変える

人はなぜ健康でありたいと願うのか

人はなぜアスリートのパフォーマンスに熱狂するのか

あなた自身の「生きる」「楽しむ」を見つめ直すことからスポーツ健康科学部の学びは始まっています。

身近な生活から生まれたあなたの問いが、人類を、社会を、変えるかもしれない。

未来を創るスポーツ健康科学部の学びを紹介します。



一生ものの運動センス 10代前半までに鍛えておくべき 「動作コーディネーション能力」とは？



子どもの体力低下が叫ばれて久しい今、水泳やサッカーなどの教室に早くから子どもを通わせなければならない人がいるかもしれません。しかし、競技に特化したトレーニングだけでは身につかず、しかも10代前半までに鍛えなければどんな競技に進んでも高いパフォーマンスが発揮できないとされる神経系の能力があることを知っていますか？

一生の運動センスを左右する「動作コーディネーション能力」。スポーツタレント発掘・育成の場でも重要視されつつあるその能力とはどのようなものなのでしょう？子どもの体力や運動能力の向上に関する研究を続ける上田憲嗣先生に聞きました。



上田 憲嗣 准教授

スポーツ教室に通わせるだけでは
運動センスは鍛えられない
かもしれません

詳しい記事はWEBでご覧ください



引っ張る？サポートする？ 個人が成長し、チームとしても 高い成果を上げるためのリーダーシップとは？



スポーツ選手にとって、チームの雰囲気やチームメイトとの人間関係は、競技へのモチベーションや技術の向上、精神的安定にも関わるものではないでしょうか。そして、それらを左右するのが、チームをリードする監督やキャプテンの存在です。

今の時代、どんなリーダーが、どんなリーダーシップを発揮することが、個人の成長を促し、チームとしての高い成果にもつなげられるのでしょうか？関係性リーダーシップとチーム力向上に関する心理学研究を行う山浦一保先生に聞きました。



山浦 一保 教授

リーダーシップに必要なのは
「黄金の2軸」です

詳しい記事はWEBでご覧ください





枝松 幹志郎 さん 1回生
岡山県・岡山県立岡山城東高等学校卒

行動力で夢に近づく。入学してすぐに 飛び込んだスポーツバイオメカニクスの世界

1回生からゼミに参加し研究計画を立案

高校時代に片足ジャンプの効果を測定する運動力学の実験に参加する機会があり、自分も力学的観点からスポーツの計測や分析を行ってみたいと考えるようになりました。入学後すぐに少しでも早く実験に携わりたいという思いから、スポーツバイオメカニクスを研究されている先生のゼミに参加させていただき、現在は大学院生の発表を聴き知見を深めながら自身の研究計画を検討しています。通常の授業に加え、ゼミに部活にとハードな日々ですが、学習や生活をサポートしてくれる学生団体の応援もあり、毎日が楽しいです。行動力と意欲さえあれば、学年を問わず様々なことにチャレンジできるのがこの学部の良い所です。

感覚を具体的な数値に落とし込み、課題を解決していきたい

ゼミで先生や先輩方のお話を聞く中で、少しずつ自分の考えに変化も生まれてきました。最初はとにかく片足ジャンプの研究がしたいと考えていたのですが、今は誰もやったことのない研究対象を見つけて挑戦したいと思っています。私は中学校から今までバスケットボールを続けており、将来的にもバスケットボール界の発展に貢献できるような研究施設で働きたいと考えています。スポーツバイオメカニクスはさまざまな課題に対して具体的な数値で道筋を示すことができるため、今後学びを進めていく中で、さまざまな課題を解決へと導く実力を身につけていきたいです。



中本 夕理 さん 3回生
奈良県・私立育英西高等学校卒

スポーツを制限されてきた自分の経験と 学びをつなぎ、新たな未来を模索していく

「スポーツ傷害」という新たな学びから広がる夢

幅広い授業を履修する中でスポーツ傷害の分野に興味を持ち、現在、整形外科医としても活躍されている先生のゼミでスポーツ医学について学んでいます。元々私は膝の半月板が比較的大きいことから、激しい運動を控えなければならないといった経験をしてきました。そうした過去から、入学時には理学療法士やトレーナーになって同じような境遇の人を支えたいと考えていました。しかし、スポーツ健康科学部での学びが深まるにつれ、今ではもっと広い視野でスポーツを捉え、在学中に健康運動指導士の資格取得も目指しています。

指導実習にレポート…、幅広い課題に地道に取り組む

現在、私は「スポーツ指導実習」の課題に取り組んでいます。これはさまざまなスポーツや年齢層における指導方法と、それを実践するための能力を身につけることが目的です。ほかに心臓病に関するレポート課題が出ていたり、過去の文献を調べて自分の意見をまとめるような課題があったりと、とにかく課題はたくさん出るので、私は通学の移動時間などを有効活用しながら地道に取り組んでいます。この学部には、私のようにスポーツをあまりしてこなかった学生や、卒業生の中には美容系のお店を起業された方もいるなど、スポーツ以外にも色々な興味を持った学生が集まっています。目の前にある機会を大切に、何事も中途半端にせず、自分の納得のいくまで突き詰めることができれば、自然と道は拓けると私は信じています。

SPORT SCIENCE

HEALTH AND EXERCISE SCIENCE

スポーツ健康科学部 で見つけた未来

STUDENT VOICE

朝食に関する素朴な疑問が研究に発展。 地元の特産品を使ったユニークなアイデア

身近な「食」からスポーツにアプローチする

身近な食に興味を持ち、ゼミでスポーツ栄養学と栄養教育学を学んでいます。私は主にアスリートに関する栄養面のサポートに注力していますが、スポーツ栄養学は幅広い年齢層の人々の活動に応用が可能な学問です。

スポーツ健康科学部にはきれいなアイランドキッチンを備えた栄養調理実習室があり、下宿先では実践できない調理も行うことができます。同じゼミにはビール酵母や柔道の減量方法について調べるなど、食にまつわる研究をしている学生が多く、私を含め彼らのほとんどが学部に入ってから自分のやりたいことを見つけています。学びの自由度が高く、進路が多様なのもこの学部ならではの特徴です。

「素麺」で食生活の向上と地元の活性化に貢献したい

下宿で自炊をするうちに朝食の重要性を感じるようになったこと、そして出身地が素麺の生産地であることから、卒業論文は「朝食における素麺の可能性」にしようと考えています。朝食を食べていない下宿生は多く、そうした習慣がなぜついてしまうのか、ずっと疑問に感じていました。また、ゼミでびわ湖プリンスホテルにあるレストランの地産地消メニュー開発に携わっている経験も活かし、地元の素麺の可能性を探求し、若年層の朝食に活かすことができると考えています。

アスリートであっても、そうでなくても、朝食を摂ることは大切です。この研究を進めることで、それぞれの地域の「幸せな朝ごはん」につながる、と思っています。



岡橋 未来 さん 4回生
兵庫県・兵庫県立龍野高等学校卒

カタールでのフィールドワークを契機に、 人と人をつなげる「スポーツの力」に着目

スポーツの機能や影響を経営学の視点から解き明かしていく

デジタル化が進む世の中でこそ、人間はより「人間らしさ」を求めるのではないかと。趣味であったスポーツ観戦について考えながら高校生の頃にふと思ったことが、スポーツビジネスを学ぼうとしたきっかけでした。大学でスポーツについて学ぼううちに、スポーツにはコミュニティを形成し、人と人をつなげる力があると感じました。この魅力についてより学びを深めたいと考え、卒業論文では特定のスポーツクラブを取り上げ、「人と人をつなげるスポーツの機能」にフォーカスして研究する予定です。2022年12月に行われたFIFAワールドカップでカタールを訪れ、スポーツが観光に及ぼす影響を調査した経験も活かし、スポーツの当事者だけでなく、スポーツが地域にどんな影響を及ぼすのかを研究していきたいと考えています。

多様なインターンシップに参加し実践を積み重ねる

学びの実践の場として、インターンシップにも積極的に参加してきました。子ども向けスポーツイベントを立案、実施するインターンシップに参加した際は、初対面の子どもたちが喜びを分かち合う姿を見て、あらためてスポーツの魅力を実感しました。憧れだったプロサッカークラブチームのインターンシップでは、実際の現場を体験することができ有意義だった分、スポーツ業界全体の課題が垣間見える場面も多く、座学にはない学びを得ることができました。

卒業後はコンサルティング業界に進む予定です。様々な課題の解決策のひとつとしてスポーツを活用し、より豊かな社会の構築に貢献していきたいです。



十亀 凜生 さん 4回生
東京都・私立海城高等学校卒

SPORT PEDAGOGY

SPORT MANAGEMENT

「理論と実践」の学びを通じて、 社会で活躍するための基礎力を養成する

系統的なカリキュラムで低回生時には基礎的
学力を鍛えるだけでなく、1回生秋学期より専
門的な科目を学び始め、スポーツ健康科学部
の総合的・学際的な理解を深めます。2回生
ではPBL（課題解決型学習）科目で実践力と
主体性を磨きます。

3回生からは4つの領域（スポーツサイエンス
領域・健康運動科学領域・スポーツ教育学領
域・スポーツマネジメント領域）からなる領域
科目を横断的に学び、「理論」と「実践」の
学びを応用し「分野を超えた挑戦」を実践し
ます。ゼミ（専門演習）に所属し、スポーツ
健康科学のテーマを探索し、資格取得などにも
挑戦しながら、卒業時には全員が4年間の
学びの成果を卒業論文にまとめます。



自然科学と社会科学を網羅した総合的な視点からスポーツと健康にアプローチします。

回生			1 回 生		2 回 生	
セメスター			春学期	秋学期	春学期	秋学期
学びの流れ			将来へ向けて視野を広げ、経験する		「進路」へのイメージを掴む	
基礎科目	外国語科目		英語科目 (Project)1 英語科目 (Skill Workshop)1	英語科目 (Project)2 英語科目 (Skill Workshop)2	英語科目 (Project)3 英語科目 (Skill Workshop)3	英語科目 (Project)4 英語科目 (Skill Workshop)4
	基礎科目	講義	スポーツ健康科学原論 ヒト・ひと・人の倫理と哲学 身体の構造と働き ヘルスプロモーション (衛生学および公衆衛生学を含む)	スポーツ健康科学とデータサイエンス スポーツ健康科学と未来		
		演習	基礎演習 I	基礎演習 II		
専門科目	領域科目	スポーツサイエンス領域		スポーツサイエンス概論	バイオメカニクス論	スポーツ生理・生化学
		健康運動科学領域		健康運動科学概論	健康運動栄養・生理学	運動・栄養処方論
		スポーツ教育学領域		スポーツ教育学概論	インクルーシブ体育・スポーツ論	スポーツコーチング論
		スポーツマネジメント領域		スポーツマネジメント概論	組織心理学	ビジネス戦略論
		演習				
	融合科目	領域融合			PBL I	PBL II
	プロフェSSIONAL・キャリア形成科目		簿記入門		スポーツ健康科学セミナー インターンシップ (国内・海外) サービスラーニング クリニカルATインターンシップ (国内・海外)	エクササイズプログラミング 実習 I

※正式な科目名ではなく、科目の特性が分かりやすい名称に置き換えて表記している場合があります。内容は予定であり変更の可能性あります。

学び・プログラム

PBL 科目

自分のテーマでスポーツ健康科学する

PBL (Project/Problem Based Learning) は、スポーツ健康科学部で学んだ知識とスキルを実践の現場で活用する授業です。2回生の1年間を通じ、自分のテーマを持ってプロジェクトをつくり上げていきます。実際のスポーツ競技のパフォーマンス分析や健康指導に関わるアセスメント、運動実施に伴う生理応答や運動と認知機能の関係、子どもたちにスポーツを教えるプロジェクトやチーム・マネジメントを実践するプロジェクトなど、各自の関心のあるテーマを突き詰め、社会的・学術的に意義のあるプロジェクトを生み出すことを目標としています。さらに、このプロジェクトの経験を3・4回生の専門演習・卒業研究に結実させていくことができます。

プロフェSSIONAL・キャリア形成科目

キャリア形成と学びの融合

スポーツ健康科学分野におけるより高度な専門性を身につけ、習得した知識とスキルを実践で活かします。また、スポーツ健康科学分野に関連する資格取得や実践に不可欠な知識とスキルを身につけ、自らのキャリアを切り拓くために必要な知覚と感性を磨きます。

グローバル・アスレティックトレーニング(GAT)プログラム

立命館大学の学士号と米国大学院の修士号を取得し 米国公認アスレティックトレーナーの資格取得を目指す 独自の留学プログラム

GATプログラムは、アスレティックトレーニング教育認定委員会(The Commission on Accreditation of Athletic Training Education、以下CAATE)に認可されたアスレティックトレーニング教育プログラムを保有する米国の大学院への進学・留学を積極的に支援する本学部独自の画期的なプログラムです。GATプログラムは、4回生春学期終了時までに立命館大学の卒業に必要な科目の修得を終え、夏ごろから提携先の米国大学院へ留学し、立命館大学の学士と各大学院の修士を取得することで、米国公認アスレティックトレーナーの資格認定試験の受験資格を得る事ができるよう設計されています。最大の特徴は、立命館大学で修得した科目が各大学院進学のための先修要件として認められるということです。これにより、通常個人で留学する場合と比較して、短い期間で修士号まで取得してアスレティックトレーナーの資格認定試験の受験資格を得る事が可能です。



WEB上に詳細情報を掲載しています。

GATプログラムの詳細やアスレティックトレーナーとは何か、そして立命館大学アスレティックトレーナーインタビューやGATプログラム卒業生のインタビュー等を紹介しています。



3回生		4回生	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
進路選択へ向けてキャリアを考える		キャリア形成の確立・研究成果の発信	
トレーニング科学 パフォーマンス測定評価方法論	スポーツ情報科学		
健康運動評価方法論 スポーツ医学	生活習慣病論		
スポーツ栄養教育学 スポーツ心理学	スポーツ教育実践学		
マーケティング論 リサーチメソッド	ソーシャルイノベーション論		
専門演習 I	専門演習 II	専門演習 III	専門演習 IV 卒業論文
学校保健学 エクササイズプログラミング実習 II スポーツ指導実習 A(球技:ゴール型) スポーツ指導実習 A(球技:ネット型) スポーツ指導実習 A(武道) スポーツ指導実習 B(器械運動) スポーツ指導実習 B(陸上競技) スポーツ指導実習 B(水泳) スポーツ指導実習 B(ダンス) インクルーシブ体育・スポーツ実習 インターンシップ(健康運動指導士)			

※上記表の学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目(教養科目)を多数履修することができます。

大学院進学

就職

トッ
プレ
ベル
の
教
員
陣
が
、
高
度
な
教
育
・
研
究
活
動
を
展
開

高度な研究実績を持ち、国内外においてスポーツ健康科学分野をリードする教員陣が専門分野の域を超えて有機的に連携し、高度な教育・研究を実践しています。



教員情報（詳細）はこちら！

教員の研究内容等詳しい情報は、
「スポーツ健康科学部ウェブサイト」
<https://www.ritsumeikai.ac.jp/shs2022/about/faculty.html/>

スポーツ健康科学部 立命館

検索

スポーツサイエンス



塩澤 成弘 教授

【専門分野】
生体医工学・スポーツ工学
【研究テーマ】
スポーツ・健康・医療分野の
生体計測センサ/デバイスに
関する研究

生体計測のための
計測機器や手法の開発

健康維持や運動パフォーマンスの向上に対して科学的なアプローチを行うためには、詳細な心身状態の計測が欠かせません。そのための機器や手法の開発やその応用が研究対象です。その中の一つとして、センサを組み込んだ衣類型生体計測デバイス（スマートウェア）の開発に取り組んでいます。スマートウェアは日常生活においても着用でき、スポーツや日常生活の心身にまつわるデータを負担なく計測できます。日々の計測値を知ること、競技力向上や健康状態の維持の研究に大きく貢献することを目指しています。また、具体的な活用方法として、生体計測を活用したコンディショニングサポートシステムや、VRと組み合わせたフィットネスシステムの開発も行っています。



家光 素行 教授

【専門分野】スポーツ生理・生化学
【研究テーマ】運動および栄養摂取の
効果と機序解明に関する研究



伊坂 忠夫 教授

【専門分野】応用バイオメカニクス・
スポーツ科学
【研究テーマ】スポーツ競技力ならび
に日常生活を高めるための応用バイ
オメカニクス



後藤 一成 教授

【専門分野】トレーニング科学
【研究テーマ】競技力向上および健康
増進のためのトレーニングやコン
ディショニングに関する研究



長野 明紀 教授

【専門分野】スポーツサイネティク
ス・スポーツバイオメカニクス
【研究テーマ】人体の運動制御のメカ
ニズムに関する研究、運動機能向上
のための工学的支援



藤田 聡 教授

【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】効率的な骨格筋肥大
を目的とした運動と栄養摂取に関
する研究



福谷 充輝 講師

【専門分野】トレーニング科学・ス
ポーツバイオメカニクス
【研究テーマ】スポーツパフォーマンス
上の基礎となる、骨格筋の力学
的、生理学的特徴の解明

健康運動科学



村上 晴香 教授

【専門分野】
行動生理学・運動遺伝学
【研究テーマ】
運動行動誘発を通じた
健康づくりに関する研究

運動行動の誘発メカニズムを知ることで
運動を介した健康づくりの推進を

私たちは、「運動が健康によい」と認識しているながらも、それを行動として実行することや、実行できたとしても継続することには困難さを感じます。ヒトが運動行動を起こす場合、運動が“楽しい”“心地よい”といった内発的要因に加え、“運動を行うことで痩せる”“運動は健康によい”といった外発的要因などが関与します。この際、ヒトの生体内では、分子生物学的・生理学的なメカニズムの下、「運動行動」が認識・決定・実行されます。

人々が困難さを感じる「運動行動」について、その誘発メカニズムを解き明かすことで、誘発・継続させるシステムへと繋げ、人々の人生の基盤となる健康づくりへの貢献を目指しています。



真田 樹義 教授

【専門分野】応用健康科学・運動処
方
【研究テーマ】生活習慣病および介
護予防のための運動処方研究、異分
野の連携がもたらす価値創造



篠原 靖司 教授

【専門分野】スポーツ医学・整形外科
科学
【研究テーマ】機能解剖学的アプ
ローチによるスポーツ傷害に関する
研究



清家 理 教授

【専門分野】応用健康科学・社会医
学・老年学・医療福祉学
【研究テーマ】1.認知症の人と家族
に対する非薬物介入と効果検証（認
知症や抑うつ進行予防）
2.Community design for Diversity
& Inclusion and Well-being



田畑 泉 教授

【専門分野】スポーツ健康科学
【研究テーマ】身体活動・運動による
生活習慣病予防に関する研究、競技
力向上のための高強度・短時間・間
欠的トレーニングに関する研究



橋本 健志 教授

【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】競技力向上や健康増
進のための有効な運動・栄養処
方の開発に関する研究



岸本 康平 講師

【専門分野】スポーツ医学
【研究テーマ】スポーツによる慢性
疼痛の原因解明と予防法に関する
研究



寺田 昌史 講師

【専門分野】スポーツ医学・運動
神経生理学・バイオメカニクス
【研究テーマ】身体運動にともなう
下駄傷害（特に足関節捻挫とCAI）か
どのように人の「生活と健康」に影響を
与えるかを探索

スポーツ教育学



大友 智 教授

【専門分野】
スポーツ教育学・体育科発達学
【研究テーマ】
スポーツ指導場面・体育学習場面
における教授・学習に関する研究

全ての子どもに運動・
スポーツの価値の享受を

運動が嫌いな子どもも好きな子ども、等しく運動・スポーツの価値を味わい、人生を豊かに過ごして欲しい。そんな思いを実現したいと考えています。そのために、子供達の運動への取組、指導者との会話、子供達同士の話し合い等を分析し、法則を探究してきました。それらを踏まえて、滋賀県、北九州市、高知県、茨木市、群馬県等で先生を対象とした研究や研修を進めています。その結果、研修を受けた先生の指導により、子供の体育嫌いが少なくなったという効果を得ました。



海老 久美子 教授

【専門分野】スポーツ栄養学・栄
養教育学
【研究テーマ】栄養的支援と食教
育の効果についての研究



岡本 直輝 教授

【専門分野】コーチング
【研究テーマ】競技力向上に関す
るコーチング研究



上田 憲嗣 准教授

【専門分野】発達発達学・スポ
ーツ教育学
【研究テーマ】子どもの身体と運
動の発達と体育・スポーツ
指導に関する研究



河井 亨 准教授

【専門分野】大学教育学・学習論・
キャリア形成
【研究テーマ】「大学生の学びと
成長」に関する理論的・実証的・
実践的研究



笹場 育子 准教授

【専門分野】スポーツ心理学・ス
ポーツ教育学
【研究テーマ】競技力向上を目的
としたメンタルトレーニングの効
果およびスポーツにおける対人援
助に関する研究



永浜 明子 教授

【専門分野】臨床哲学、インクル
ーシブ体育・スポーツ、アダプテ
ッド体育・スポーツ、学校保健学
【研究テーマ】「ひと」についての
問い、インクルーシブおよびアダ
プテッド体育・スポーツのあり方、運
動が苦手な児童・生徒の体育づくり

英語科目担当教員
祐伯 敦史 教授

【専門分野】神経言語学
【研究テーマ】言語理解や習得
のプロセスについて研究・解
明する

英語科目担当教員
峰見 一輝 講師

【専門分野】心理言語学
【研究テーマ】ヒトの言語理解
メカニズムの解明

スポーツマネジメント



種子田 穰 教授

【専門分野】
スポーツマネジメント
【研究テーマ】
プロスポーツビジネス
モデルの研究

ビジネスと社会貢献の両面から
スポーツマネジメントを考える

私は2001年から、アメリカのプロスポーツとして最も成功を収めているNFLとのパートナーシップを通してスポーツビジネスを研究してきました。そこにはスポーツがビジネスとして自立していくための、さまざまな方法論があります。一方で、スポーツを通じた社会貢献活動と、それを支える企業の存在というのも、スポーツマネジメントの重要な側面です。本学部は2012年度、スポーツ文化振興を推進する一般財団法人ユナイテッド・スポーツ・ファウンデーションと学術協定を締結。ビジネスと社会貢献の両面から、スポーツマネジメントを実践的に学べる環境をさらに充実させています。



長積 仁 教授

【専門分野】スポーツマネジメント
【研究テーマ】スポーツとまちづく
りの相互補完の関係に関する研究



山浦 一保 教授

【専門分野】産業・組織心理学
【研究テーマ】信頼ベースのリー
ダーシップとチーム力向上に関
する心理学的研究



平井 祐理 准教授

【専門分野】経営学
【研究テーマ】企業におけるデー
タ利活用に関する研究、オープン
イノベーションに関する研究



安 邦 講師

【専門分野】スポーツマーケティング・ス
ポーツツーリズム
【研究テーマ】スポーツ消費者経
験のビジネスおよび社会的アウト
カムに関する研究



橋詰 賢 助教

【専門分野】バイオメカニクス・
人間情報工学
【研究テーマ】健康者および障害
者の身体運動に伴う負荷に関する
研究



長谷川 夏輝 助教

【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】生活習慣病に対
する運動効果およびメカニズム解
明に関する研究



前大 純朗 助教

【専門分野】トレーニング科学・
神経筋生理学
【研究テーマ】筋力トレーニング
に伴う中枢神経系および骨格筋
の適応



堀内 元 特任助教

【専門分野】スポーツバイオメカ
ニクス
【研究テーマ】野球のバッティ
ングにおけるバットのスイングス
ピードに関連する要因の解明

教員の実績インフォメーション（抜粋）

経歴・受賞歴等
〈田畑泉、家光素行〉
●第22回 秩父宮記念スポーツ医・科学奨励賞（2020）
〈清家理〉
●Geriatric & Gerontology Best article Award（2022）
〈山浦一保〉
●公益社団法人日本心理学会学術大会優秀発表賞（山浦・大坪・日隈 2022 論文「職場における妬み感情の緩和に向けた実証の試み—上司との関係性、感謝の気持ちで過ごす1週間の力は妬みの増幅を食い止める？」）
●第11回HRアワード2022 書籍部門入賞（『武器としての組織心理学』、日本の人事部より授与）（2022）

執筆論文・書籍
〈上田憲嗣〉
●児童期における動作コーディネーションと体力の関係、
トレーニング科学、31/ 1, 45-52、2019
●短時間運動が児童の握力及びボール投げならびに運動有
能感に与える影響について、スポーツ教育学研究、
39/ 2, 1-11、2020
〈海老久美子〉
●エッセンシャルスポーツ栄養学（編集・共著／市村出版）、2020
〈大友智〉
●中学校・高等学校 体育科教育法（共著／建帛社）、2021
●平成29年度小学校新学習指導要領ポイント総整理体育
（共著／東洋館出版社）

〈清家理〉
●Aya Seike, Self-awareness, Self-management: For
Individual and Organizational Success. Partridge
Publishing, 2021. 89-100.
●M. KOMORI, K.TAKEMURA, Y. MINOURA, A. UCHIDA, R.
IIDA, A. SEIKE and Y. UCHIDA, Extracting multiple layers
of social networks through a 7-month survey using a
wearable device: a case study from a farming community
in Japan. J Comput Soc Sc 5, 2022. 1069-1094.
●認知症家族介護者におけるWell-being獲得とは、日本老
年医学会雑誌、2021.58(3), 353-362.

〈田畑泉〉
●「4分で身体は変えられる」の科学—なぜ短時間・高強度運
動が人気なのか—（扶桑社）、2020
●1日4分 世界標準の科学的トレーニング、今日から始める
「タバタレーニング」、ブルーバックス（講談社）、2022
●Tabata I, Tabata training-The Science and History of
HIIT- Academic Press, Elsevier, USA. 2022

〈永浜明子〉
●自閉症スペクトラムをめぐる二者の現象学的当事者研究：
「傷つきやすさ」と「特性」／（MISC）研究論文、
『傷つきやすさの現象学』83-104（大阪大学）、2020
●「間」に生起する自閉症スペクトラム／大阪大学出版会、
2020
●Aju・永浜明子『発達障がいを生きたい。：“ちょっと変わっ
た”学生とせなせい、一つ屋根の下に暮らして』（ミネル
ヴァ書房）、2022

〈橋本健志〉
●Effects of resistance training intensity on muscle
quantity/quality in middle-aged and older people:
a randomized controlled trial
Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle. 2022 共著

〈山浦一保〉
●「総合知」の共創：心の可視化技術に関するワークショッ
プの成果と課題（共著）サイエンスコミュニケーション、12
(1), 42-48. 2022
●『心理学検定 専門用語&人名辞典』（共著）
（実務教育出版）、2023
●『武器としての組織心理学』（ダイヤモンド社）、2021



藤江 隼平 助教

【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】運動・栄養介入に
よる心血管疾患リスクへの効果
と機序解明に関する研究



下澤 結花 助手

【専門分野】アスレティックト
レーニング・スポーツ医学
【研究テーマ】身体運動に伴う障
害が及ぼす生活の質と健康への影
響と向上法の究明

社会人基礎力とグローバルな視野を 備えた人材には、 多様な進路が広がっている



小島 ちなみ さん

株式会社ワコール
ウエルネス事業部 営業担当
大阪府出身・大阪府立寝屋川高等学校卒

在学中の軌道修正でたどり着いた “ウエルネス”という居場所

誰かのために直接何かをして、その人の人生を豊かにする仕事に就きたいと考えており、お客様に寄り添ったブランド展開をされているワコールに入社しました。ワコールと聞くと、皆さんインナーや下着をイメージされると思いますが、私の所属するウエルネス事業部はスポーツ関連の商品を扱っています。健康な体づくりを通してお客様に寄り添っていくことが方針の部署で、それに携われていることをとても楽しく感じます。担当している直営店のマネジメント業務では、肉や骨、有酸素運動といった学部でのスポーツに関する学びがお客様へのアドバイスに活かされていますし、在学中にマーケティング

を専攻していたため、スポーツ市場の動向も身近に感じることができています。スポーツ健康科学部には体育教師の職に憧れがあり入学しましたが、自分の興味に合わせたマーケティング分野へシフトチェンジすることができたので、4つの領域からなる学びの体制はとても魅力的だと思います。

今は会社を通じてお客様のために何かをするという形ですが、将来は直接顔の見えるところでお客様のために何かしたいと考えています。

卒業生の声 VOICE01



中曽根 さやか さん

東宝株式会社エンタテインメントユニット
演劇本部 演劇部
兵庫県 兵庫県立宝塚北高等学校 演劇科卒

学部で得た幅広い経験を生かし 心身両面から役者をサポート

東宝の演劇本部に演出部として入社、現在は制作として働いています。作品全体のスケジュールの大枠を組み、台本や譜面の作成などの稽古準備から稽古場の運営、ツアー公演の交通や宿泊の手配等、滞りなく公演初日から大千穂楽まで公演が行えるように調整し基盤を作る、なんでも屋のような役割です。

一枚の企画書から始まったものが、稽古場で役者や音楽の表現によって物語が立ち上がり、劇場で舞台装置や照明が加わり立体的になっていく過程が面白く、幕が開いて満員のお客様からの拍手をいただいた瞬間にやりがいを感じます。長年ダンスをしていて怪我が多かったのですが、骨格や筋肉の構造を理解することで怪我をしなくなった経験から、人体の構造や動作解析に興味を持ち、様々な背景を持つ人が

集まる場所で幅広い人間関係を構築したいと考えこの学部を選びました。卒業論文では「チェストスタンド」と呼ばれる軟体芸のポーズを取り上げ、体のどの部分の柔軟性を高めればこの姿勢ができるようになるのかを研究しました。舞台には怪我や故障が付き物ですが、状況に応じて臨機応変な処置や行動ができるのは当時の学びのおかげです。専門的な知識はもちろん、多くの友人と関わり、絆を深めた経験は今の私の骨子になっています。

今後はプロデューサーとして、自分の立案した企画を上演することが最も大きな目標です。そのため、演劇に限らず視野を広げて様々な世界を知り、企画力や英語力のスキルアップを実現していきたいです。

卒業生の声 VOICE02



© 2022 BenVanHouten

山本 和広 さん

シアトル・マリナーズ
マニュアルセラピスト
東京都出身・東京都立駒場高等学校卒

取得可能な資格

- 中学校教諭一種免許状（保健体育）
- 高等学校教諭一種免許状（保健体育）
- 健康運動指導士※1
- 健康運動実践指導者※1
- 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者※1
- トレーニング指導者※1
- BOC-ATC（the BOC credential of “Athletic Trainer Certified”：米国公認アスレティックトレーナー）※2

※1 認定試験の受験資格が得られます。
※2 受験資格を得るため、卒業後に米国提携先大学院へ進学し、修士号を取得する必要があります。

卒業生インタビュー



スポーツだけじゃない。卒業後の進路。
2020年にスポーツ健康科学部は10周年を迎え、学び成長した卒業生が様々な分野で活躍しています。
<https://www.ritsumeikai.ac.jp/shs2022/activities/>

異色の経歴を生かし、メジャーリーグで 野球選手のサポートに励む

選手を最も近くで支えられるATC（米国公認アスレティックトレーナー）に興味を持ち、GATプログラム※に参加しました。通常の授業に加え、アスレティックトレーナーに関する知識を英語で学ぶのは大変でしたが、慣れてくると非常に楽しかったです。3回生の時には留学生専用のBKC国際寮で住み込みのスタッフとして働き、自らを英語漬けの環境に置くことで海外生活のイメージを膨らませていきました。

2018年に渡米し、その2年後にATCの資格を取得。サーカスをはじめとするパフォーマンスのサポートに興味があったため、スポーツ現場以外にもBall State Universityのダ

ンス演劇学科などで経験を積みました。

現在はシアトル・マリナーズでマニュアルセラピストとして働いています。パフォーマンスのサポートを経験したことで、ほかのトレーナーにはない視点で選手をケアできることが私の強みです。スケジュールも、求められる成果も、非常にタフな現場ですが、その中で選手が好成績を残せるよう最善を尽くし、チームの勝利に貢献することが今の私の目標です。

この学部は自分の積極性次第で可能性が広がっていきます。ぜひ皆さんもやりたいことにチャレンジしてみてください。

※ATCの資格取得を支援する立命館大学スポーツ健康科学部独自のプログラム（P.8参照）

卒業生の声 VOICE03

就職分野と実績

スポーツ関連企業

(株)アシックス・美津濃(株)・グンゼスポーツ(株)・(株)ゴールドウィン・ゼビオ(株)・セントラルスポーツ(株)・つるや(株)・デサントジャパン(株)・(株)ドーム・HOS(株)・(株)ビバ・山本光学(株)・(株)楽天野球団・(株)モンベル・ブリヂストンスポーツ(株) 他

教職員・公務員

国家公務員一般職・地方公務員（上級職）・京都府教育委員会（小学校・中学校）・京都市教育委員会（小学校）・長浜市役所・高知県教育委員会（中学校）・滋賀県教育委員会（小学校）・守口市役所・滋賀県警察本部・三田市役所・京都府庁・警視庁・東京消防庁 他

サービス

出光興産(株)・大阪ガス(株)・関西電力(株)・(株)NTTドコモ・静岡ガス(株)・北海道電力(株)・中部電力(株)・北海道旅客鉄道(株)・西日本旅客鉄道(株)・九州旅客鉄道(株)・伊藤忠商事(株)・三井物産(株)・豊田通商(株)・日本航空(株)・全日本空輸(株)・(株)オリエンタルランド・日本電気(株)・(株)野村総合研究所・(株)オービック・楽天(株)・(株)日刊スポーツ新聞西日本 他

食品

アサヒフードアンドヘルスケア(株)・エスビー食品(株)・カゴメ(株)・(株)ブルボン・(株)ヤクルト本社・ハウスウェルネスフーズ(株)・キリン(株)・サントリーホールディングス(株)・味の素(株)・日清食品(株)・伊藤ハム(株)・アサヒビール(株)・ハウス食品(株)・山崎製パン(株)・(株)ロッテ 他

医療

武田薬品工業(株)・第一三共(株)・アステラス製薬(株)・

塩野義製薬(株)・シスメックス(株)・ゼリア新薬工業(株)・東レメディカル(株)・日本赤十字社・ロート製薬(株)・久光製薬(株)・大塚製薬(株)・Meiji Seika ファルマ(株)・小林製薬(株)・旭化成(株) 他

メーカー

パナソニック(株)・キヤノン(株)・テルモ(株)・(株)豊田自動織機・住友電気工業(株)・(株)LIXIL・(株)ワコール・日本たばこ産業(株)・京セラ(株)・豊田合成(株)・(株)ファーストリテイリング・帝人(株)・富士通(株)・花王(株)・オムロン(株)・日本精工(株)・マツダ(株)・積水化学工業(株)・(株)村田製作所・トヨタ自動車(株)・伊藤忠食品(株)・Apple Japan合同会社 他

金融・保険

(株)香川銀行・(株)京都銀行・京都信用金庫・京都中央信用金庫・(株)滋賀銀行・住友生命保険(相)・第一生命保険(株)・日本生命保険(相)・三井住友海上火災保険(株)・(株)三井住友銀行・明治安田生命保険(相)・(株)三重銀行・(株)三菱東京UFJ銀行・(株)みずほファイナンシャルグループ・野村證券(株) 他

マスコミ

(株)ADKホールディングス・(株)エフエム東京・(株)京都放送・(株)TBSテレビ・(株)デイリースポーツ・東映(株)・東海テレビ放送(株)・(株)日刊スポーツ新聞西日本・(株)博報堂プロダクツ・びわ湖放送(株)・(株)フジテレビジョン・(株)USEN・(株)リクルートコミュニケーションズ 他

大学院進学

スポーツ健康科学研究科 博士課程前期課程

最先端の教育・研究環境が、高度で充実した学びをサポート

最先端の教育・研究を実現するため、高度な研究に欠かせない充実した施設・設備を保有しています。興味のある研究を深めるために、学部生のうちから、このような環境を存分に利用することができます。



1 スポーツパフォーマンス測定室

野球やゴルフ、ランニングなどのスポーツ動作をはじめ、あらゆる動作の計測・解析が行える多目的スペース。複数の「ハイスピードカメラ」を設置しており、投げたボールの回転をスローモーションで観察するといった相対分析もできます。

2 エネルギー代謝測定室

「壁面のセンサ」で人間の1日の正確なエネルギー消費量を測定することが可能です。

3 低酸素実験室

低酸素環境下でのトレーニングが身体に与える影響を解析することができます。

4 栄養調理実習室

システムキッチンや調理器具が整っており、競技力向上につながるメニューや栄養価の高い料理などを実際に調理することが可能です。またダイニング部分は、子どもから高齢者までを対象とした「食育」を実践する場として活用します。

5 スポーツ健康指導実験室

筋パワーや持久力の測定評価ができる「パフォーマンス測定システム」や、人間の体型を3次元で瞬時に解析する「3次元人体計測システム」など、多様な機器を設置しています。

6 スポーツ健康 commons

通年使用可能な25m公認プール(温水)7レーン、50mの屋外プール4レーンを設置した体育館は、実習科目や測定実験等で利用することが可能です。

7 トレーニング指導実習室

トップアスリートの筋力増加を想定した各種「トレーニングマシン」や「フリーウエイト機器」を完備。現場におけるトレーニング技術の習得をめざします。

8 MRシステム・骨密度測定装置

人間の体内の状態や脳内の働きを調べることができる「MRシステム」、骨密度や体脂肪、除脂肪量などの体組成を推定する「骨密度測定装置」を設置。これらを利用して、スポーツ健康科学分野に関連した高度な研究ができます。日本のスポーツ健康科学関連の施設では、国立スポーツ科学センターに並び、最新鋭の設備となります。

学部生のうちから最新鋭の設備を使用できます

奨学金

学生を全面的にサポートする充実の奨学金制度

立命館大学では豊富な独自奨学金を設け、学業はもちろん、スポーツ活動、留学など、自分の目標にチャレンジする学生を幅広くサポートしています。本学独自の給付制奨学金のほか、日本学生支援機構や公的機関・民間団体などの各種奨学金制度が充実。

→ 詳しくは立命館大学入試情報サイトをご覧ください。 [立命館](#) [入試情報サイト](#) [検索](#)

募集人数	235名
------	------

檢 索

